

世界ハビタット・デー2012 福岡国際シンポジウム

changing cities building opportunities

アジア福岡の都市モデルについて考える

が、2012年10月1日、アクロスの国際会議場で行われました。今回の福岡国際シンポジウムの発表者は、コーディネーターの高田 仁さん、ディスカッサントのちょう せいしんさん、光山裕明さん、氏原 岳人さん、bruno dercon さん以上5名の方達でした。

まず、今現在の福岡は、住みよい街、住みやすい街、最近では、可愛い街というキャッチフレーズまで出来、人口もコンスタントに増加している傾向に有ります。そして、街全体がコンパクトで陸、海、空の玄関が、近接しており、活気にあふれ楽しく生活できる街として、また、(住みやすい都市として)評価をされています。将来人口推計としては、今後20年は、人口が増加、2030年頃160万人にまでなる推計を立てています。歴史としては、二千年以上前から、大陸アジアとの交流の窓口となり、1988年~戦前からは、(福岡)と(博多)の二都が一体となった近代都市へと発展してきております。

ハビタットは、活動を活発化し、今の日本が、不足しているものを、ハビタットが、行い活動していき、バランスのとれた居住計画(空間)を作り、世界へ貢献していきます。

アジアは、これからまた都市化が進み、2050年、アジアの都市化は、世界平均と進んでいく事でしょう。

アジアの特徴としては、人口密度が\_\_高く、アジアの中には沢山の大都市が発生し、隣国、韓国ソウルでは、70年代、80年代-宅地開発。

首都圏新都市(ソウル周囲に)新都市がソウルから少しづつ離れ、建っています。

日本と韓国を簡単に表すと、日本(low density&spraw)韓国は、(high desity&コンパクト)といった事もいえます。

また、中国では、中国の都市化が進み都市人口が増え、それと共に、問題も有りますが(治安問題など・・・)

発展開発に務めており、第二次産業中心高度成長型都市として知られています。

インドネシアでは、第一次産業へ、そして、中規模都市、インドネシアでは都市の人口に対し、消費、改善された水源が有り、新しい質の高い空間を作る事に努めているそうです。

そして、今回のハビタット・デー2012 福岡国際シンポジウムのまとめとしては、福岡は、コミュニティと市政を進め、都市は、人が必要、何故かといえば、人口を増やす為に、また人口を増やすだけではなく、リーダーシップを大切に、リーダーを育成していく事も大事に考えております。また、問題としては、あらゆるデータを必要とし、集める事を目的としている事も有り、その集めたデータをどう管理していくか、今後の課題の一つでも有ります。

都市アジアとして大事な事は、計画、不安に対する立て直し、市民からの意見を、聞く事。問題を解決する事。問題が、出れば解消し、コンサル、信用、kpi、今後は成功をいかに計るか? 発達、開発をし、達成する事。

土地利用をいかに効率良く、いかに自然環境の破壊を最小限に抑え、バランス良く、都市を発展させていく事が、挙げられています。

自分は、今回のハビタット・デー福岡国際シンポジウムに参加して、思った事は、自然をいかに保持しつつ、アジア都市の問題を解決していき、住み良いアジアの都市の発展、進みを遂げていければ、成功というターゲットに、近づいていくのではないかと思います。

以上

中川 雅文